

真坂地区

(宮城県栗原市) 第1回まち交大賞 アイデア賞

計画期間 平成16~20年度
面積 1.11 km²
交付対象事業費 961,400千円
市人口 82,077 (地区内人口 1,581)

ポイント 地域交流センターとデマンド交通システムを活用した、交流人口の増大と商店街の活性化。

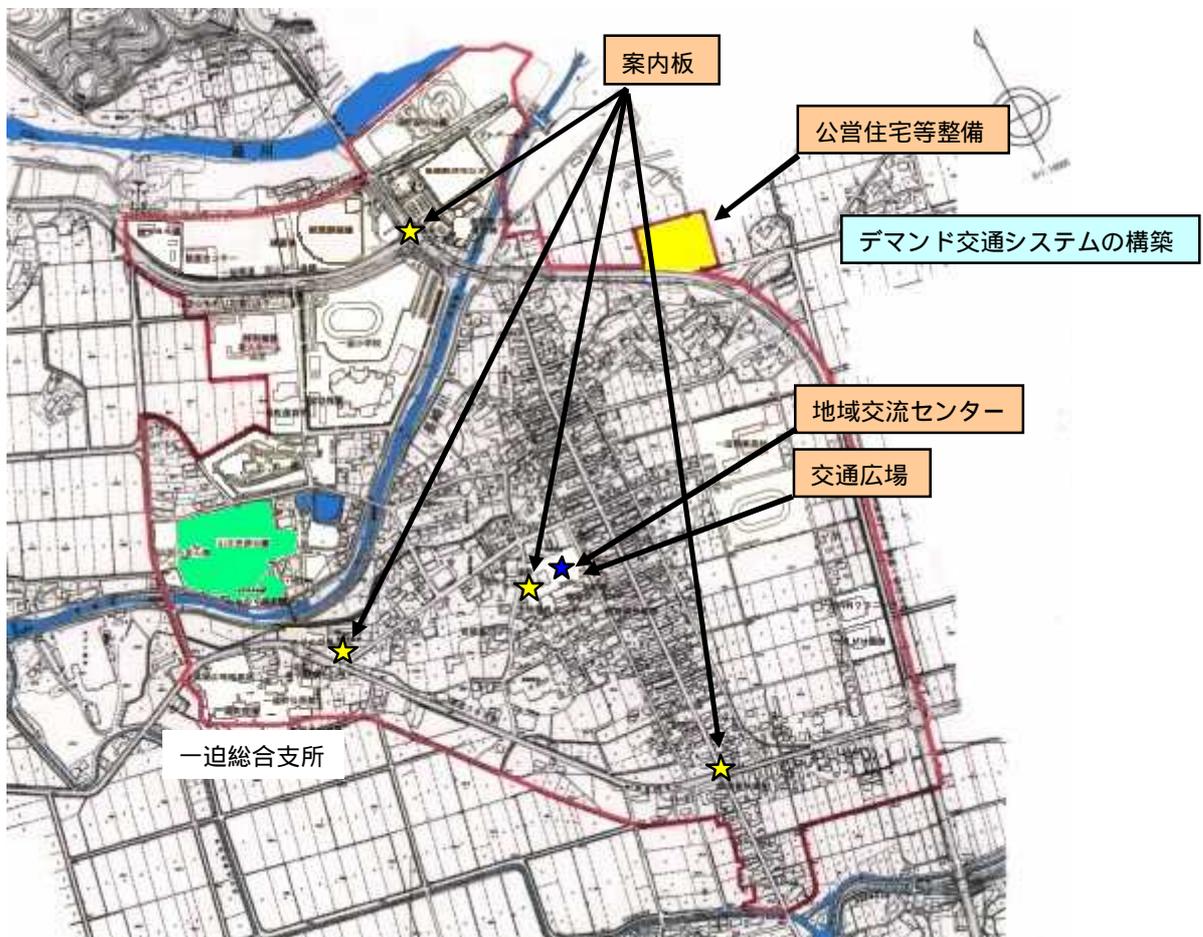
地区概要 地域交流センターを核としてデマンド交通を活用し、商店街、公共施設、新設住宅施設等を有機的に結合させ、中心商店街の活性化を図る。

目標 過疎化や商圈の拡大による商店街の空洞化に歯止めをかけたいと考えていた。また、高齢化とバス路線の廃止に伴い、交通不便者の足の確保も急務であった。このため、中心部に地域交流センターを建設し、デマンド交通の拠点・住民の交流の場としての活用することによって集客増による商店街の活性化を図る。

指標 地域交流センターという交流の場、またデマンド交通システムという利便性の高い移動手段を提供することによって、住民間の交流を促し、もって中心商店街の活性化へとつなげる。

地域交流センターの利用者数	0人 H15	30,221人 H18
デマンド交通システムの利用者数	6,750人 H15	11,457人 H18
デマンド交通システムを利用した商店からの宅配	0世帯 H15	1,240世帯 H18
地区内高齢者と子供との交流事業の回数	1回 H16	4回 H20

事業内容 基幹事業 (937,400千円) 地域交流センター建設、案内板 (4基) 交通広場、公営住宅等整備 (一般住宅10戸、高齢者住宅20戸、共同施設1戸)
提案事業 (24,000千円) デマンド交通システムの構築



地区の現況と課題

景気の低迷、少子高齢化による過疎化や商圈の拡大による商店街の空洞化が進み、廃業を余儀なくされる業者も出てきており、集客力の増加が望まれていた。また、利用者減によるバス路線の廃止に伴い、交通不便者の足の確保が急務であった。加え、高齢者世帯が多くなってきたため住まいに対する安全確保の問題も課題となっていた。

提案事業の特徴

デマンド交通システムの構築

予約型乗合タクシー（デマンド交通システム）による、戸口から戸口の送迎を行うことにより交通不便者の移動手段を確保し、住民が自由にイベント参加（地域交流センター）や買物・通院（商店街）に行けるよう多目的なサービスを提供することによって中心商店街へ集客を図る。

計画策定プロセス

住民との対話

地区内 33 行政区会（自治会）と「地域を考える課題と夢（要望）」について約 1 年間話し合いをし、また各種調査、アンケートを実施。その中で「毎日、気軽に商店街・病院・公共機関に出かけられる交通手段の確保」、「商店街の中に気軽に立ち寄れる癒しの場の設置」の要望が強く挙げられた。

活性化委員会の設置

商店会を中心とした活性化委員会の協議により、商店街活性化とイベント等プロモーション活動を進めている。

運行委員会の設置

デマンド交通に関しては、運行委員会を設立し、毎月の事業評価や改善事項等を協議し、利用者ニーズに対応した商店街活性化に努める。

栗原市長佐藤勇氏のコメント

本地区は、少子高齢化による過疎化が進み、交通不便者の足の確保が急務であったことから、地区内 33 行政区により「地域を考える課題と夢」について一年間話し合いをし、戸口から安全に移動できるデマンド交通システムを計画いたしました。

その運営に当たっては地元商工会が中心に活動しており、利用実績は当初目標を大きく上回る一日平均 120 人と大変好評で、気軽に商店街・病院・公共施設に出かけられる交通手段の確保が着実になされております。

今後はこの受賞を励みとして、栗原市内の地域交通のあり方を模索しつつ、まちづくりを進めてまいります。



活性化が期待される真坂商店街



デマンド交通システム、地域交流の拠点として期待される「地域交流センター」



デマンドタクシー